

1. 学習予定

《使用教材》

●自由自在 理科

5年生から継続して使用してきた教材。

夏休み前までに全内容の解説を終える予定です。

●コンプリーション

全ての単元を総復習する為の問題集。

穴埋めをしながら一単元ずつ再確認していきます。

《ミニテスト》

●計算分野の確認テスト

計算の「手順」を覚えてもらうように、まず手順を示して覚えてもらい、後日ほぼ同内容のテストを行います。

手順を忘れたら、動画を見て覚え直し、再び練習しましょう。

●暗記分野の確認テスト

コンプリーションの穴埋め部分を、2段階のレベルに分けてテストします。

同一の教材を繰り返し使用することで、長期記憶に繋げる作戦です。同じテストを数回ずつ実施します。

レベル2をクリアした子も再度レベル2に挑戦してもらいます。

《問題演習》

●土佐塾模試の過去問題

県内の入試レベルに合わせた内容になっているため、基礎知識の確認・計算問題の練習にはちょうどよいレベルの問題が集まっています。

●各学校の入試過去問題

2学期以降を予定。

学校ごとにある程度定まった出題傾向があるため、「どのような対策をしておけばよいか」「どの範囲を重点的に復習しておく必要があるか」などをつかむためには必須です。

●その他、単元ごとに重要な部分の練習プリントなど

2. 各校の出題傾向と対策

① 土佐塾中の理科

(傾向) 約半分は基本問題。他、難問がいくつか出題される。

生物・地学、各大問の導入部分は易しめ。

(対策) 差がつくのは、知識の基本問題。単純暗記を中心に、広く浅く復習。

レベル型暗記テストで level1 をクリアする。

計算分野を補う為に、土佐塾模試の反復練習をする。

② 学芸中の理科

(傾向) 大問1は全分野の正誤問題と時事問題。大問2は記述式問題。

大問3以降は各分野の基本問題。最後の大問は計算問題。

(対策) 記述問題は採点がおおらかなので、白紙で出さないようにする。頻出問題は解答例を覚える。
レベル型暗記テストで level1 をクリアする。
計算テストで覚えた手順を使って、色々な計算問題を練習する。
土佐塾模試や学芸の過去問を解く。

③ 土佐中の理科

(傾向) 計算問題が多めに出題される。知識問題の大半はテキストに載っている内容。
文章を読んで考えさせる問題が出題される。

(対策) 複雑な計算も出来る程度の計算力を養う。題意を正確に読み取る国語力も必要。

④ 愛光中の理科

(傾向) 問題数が多い。てこ、電流など物理の問題を解く際は、作図が必要になる。

(対策) 愛光の過去問を解いて、問題文のいいまわしや難度に慣れる。

記述問題は有名題が多いので、正答例を覚える。

レベル型暗記テストで level2 をクリアする。

計算テストで覚えた手順を使って、色々な計算問題を練習する。

土佐塾模試を反復練習して 8 割以上の正解率を目指す。

土佐や愛光の過去問を解く。

3. 苦手対策

①暗記分野の対策

暗記は得点アップに直結するため、最優先に対策したい。

手を付けやすい内容から始め、初めは広く浅く全体を覚える。それができたらだんだん詳しく掘り下げて繰り返し勉強する。

問題演習も、いきなり問題をやるのではなく、内容をテキストなどで確認してから練習する方が、記憶の定着には効果的で効率がよい。

※暗記しようとしても覚えられない、覚えても問題になると答えられないという場合

(原因) 問題が読めていない。覚える練習、記憶を引き出す練習が不足している。

(対策) 学校の教科書、自由自在などを繰り返し読み、内容の理解を深める。

1 か月に 1 単元でもよいので、反復して読みこんで、理解を深めていき、自信をつける。

知らないことが多いと、問題を読んでも意味がわからず、ますます理科が苦手に。勉強に慣れる。

②計算分野の対策

算数と同じように、まずは解き方の公式・手順を覚える。

覚えるだけでは使えないので、自分で使いこなせるようになるまで反復練習。

土佐塾模試の過去問レベルが最適。最後のほうの問題は難問もあるので全問できる必要はない。
とりあえず、基本的な問題ができれば大きな穴にはならない。難問は捨てる。